

令和3年度
庄内町
一般会計等財務書類について
(概要版)

令和5年9月

1 はじめに

地方公会計制度は、住民や議会、外部に対して財務情報を開示する「説明責任の履行」と、財政運営や政策形成を行う上での基礎資料として、資産・債務管理や予算編成、政策評価等に有効に活用する「財政の効率化・適正化」を目的としています。

そのため、従来からの現金主義・単式簿記による予算・決算制度に加えて、発生主義・複式簿記といった企業会計的手法を活用した財務書類を整備します。

本町の財務書類は、平成 27 年度決算まで「総務省方式改訂モデル」に基づき作成していましたが、平成 28 年度決算からは、総務省の要請に基づき「統一的な基準」により作成しています。

【参考】公会計モデル対比表

	統一的な基準	総務省方式改訂モデル
財務書類の体系	○貸借対照表 ○行政コスト計算書 ○純資産変動計算書 ○資金収支計算書	○貸借対照表 ○行政コスト計算書 ○純資産変動計算書 ○資金収支計算書
台帳整備	○開始貸借対照表作成時に整備、その後、継続的に更新	○段階的整備を想定 →売却可能資産、土地を優先
複式簿記	○官庁会計処理に基づくデータにより、発生の都度又は期末に一括して複式仕訳を実施	○決算統計データを活用し、期末に一括して仕訳を実施
有形固定資産の評価基準	・取得原価が判明…取得原価 ・取得原価が不明…再調達原価 (道路等の底地は備忘価額 1 円)	○公共資産…決算統計データから取得原価を推計 ○売却可能資産…売却可能価額
税金の取扱い	○純資産変動計算書に計上	○純資産変動計算書に計上

2 本町の財務書類

(1) 財務書類の種類

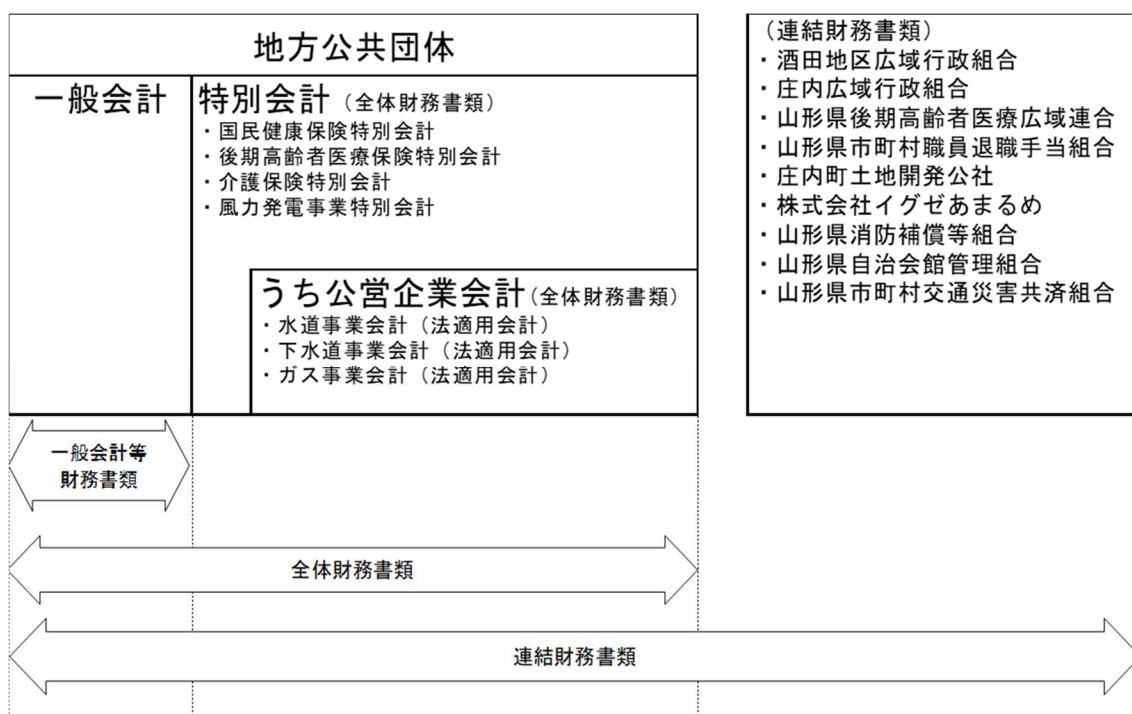
統一的な基準による地方公会計マニュアルに準拠し、「貸借対照表」、「行政コスト計算書」、「純資産変動計算書」、「資金収支計算書」の財務書類 4 表を作成しています。

(2) 作成基準日

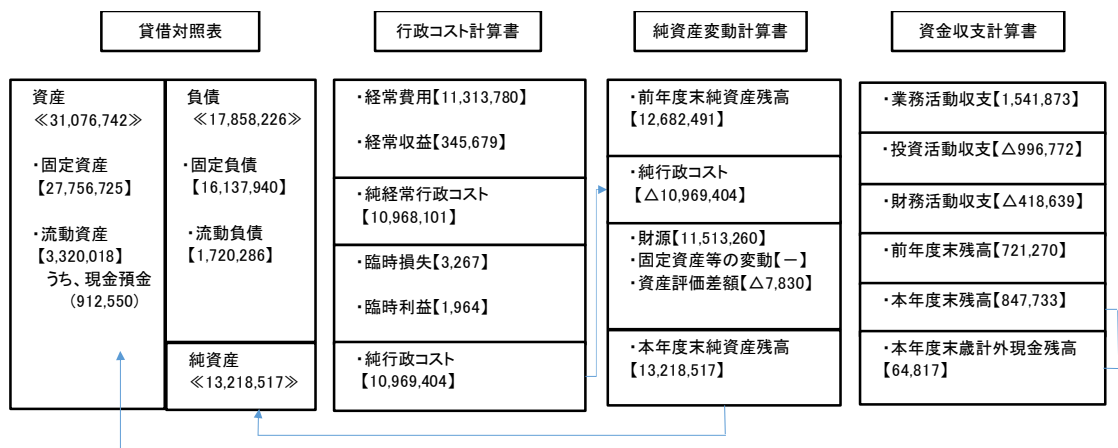
作成基準日は、令和 4 年 3 月 31 日とし、出納整理期間（令和 4 年 4 月 1 日から令和 4 年 5 月 31 日まで）の現金収支は、基準日までに終了したものとして計上します。

(3) 財務書類の対象となる団体（会計）

統一的な基準による財務書類は、以下の範囲により作成しています。



【財務書類の相互関係】（単位：千円）



貸借対照表	基準日時点における本町の財政状態を表したもの
行政コスト計算書	1年間の費用・収益を表したもの
純資産変動計算書	1年間の純資産の変動を表したもの
資金収支計算書	1年間の現金受払いを活動内容ごとに表したもの

3 財務書類（財務4表）について

以下では、一般会計等財務書類について説明します。

（1）貸借対照表（BS）

貸借対照表は、会計年度末（基準日）時点で、地方公共団体がどのような資産を保有しているのかと（資産保有状況）、その資産がどのような財源でまかなわれているのかを（財源調達状況）、対照表示した財務書類です。

貸借対照表により、基準日時点における地方公共団体の財政状態（資産・負債・純資産といったストック項目の残高）が明らかにされます。

「資産」は、①将来の資金流入をもたらすもの、②将来の行政サービス提供能力を有するものに整理されます。

「負債」とは、将来、債権者に対する支払や返済により地方公共団体から資金流出をもたらすものであり、地方債がその主たる項目です。また、「純資産」は、資産と負債の差額であり、地方税、地方交付税、国庫補助金など将来の資金の流出を伴わない財源や資産評価差額などが計上されます。

●庄内町の状況

資産合計	310億7,674万円	(R2: 309億9,535万円)
負債合計	178億5,823万円	(R2: 183億1,285万円)
純資産合計	132億1,852万円	(R2: 126億8,249万円)

負債の主なものは地方債です。サービスを受ける世代間の公平性の観点からみると、負債は、将来世代が負担する部分という見方ができます。

純資産は、地方債以外の財源ともいえます。負債が「将来世代が負担する部分」に対し、純資産は、「現世代が負担した部分」という見方もできます。

このことから、庄内町は、現世代の負担より、将来世代の負担が大きいといえます。

令和3年度は、資産総額は81,397千円増額の31,076,742千円となりました。財政調整基金の残高の増加により、流動資産は528,414千円増額した3,320,018千円となりました。

また、負債総額は454,628千円減額の17,858,226千円となりました。金額の変動が大きいものは固定負債のうち地方債であり、起債発行額が償還額を下回ったことから、411,901千円の減額となりました。

⇒関連指標 世代間公平性 「純資産比率」

【様式第1号】

貸借対照表

(令和4年3月31日現在)

(単位:千円)

科目	金額		増減	科目	金額		増減
	令和3年度	令和2年度			令和3年度	令和2年度	
【資産の部】				【負債の部】			
固定資産	27,756,725	28,203,741	△ 447,016	固定負債	16,137,940	16,579,404	△ 441,464
有形固定資産	23,160,441	23,755,275	△ 594,834	地方債	14,146,734	14,558,635	△ 411,901
事業用資産	17,191,145	17,571,842	△ 380,697	長期未払金	-	-	-
土地	3,595,601	3,595,601	0	退職手当引当金	1,925,021	1,957,851	△ 32,830
立木竹	382,304	382,304	0	損失補償等引当金	66,185	62,918	3,267
建物	31,692,108	31,497,336	194,772	その他	-	-	-
建物減価償却累計額	△ 20,209,047	△ 19,494,346	△ 714,701	流動負債	1,720,286	1,733,450	△ 13,164
工作物	3,361,391	3,350,854	10,537	1年内償還予定地方債	1,521,615	1,528,352	△ 6,737
工作物減価償却累計額	△ 1,931,299	△ 1,831,893	△ 99,406	未払金	5,885	5,777	108
船舶	-	-	-	未払費用	1,387	1,604	△ 217
船舶減価償却累計額	-	-	-	前受金	-	-	-
浮標等	-	-	-	前受収益	-	-	-
浮標等減価償却累計額	-	-	-	賞与等引当金	126,581	132,103	△ 5,522
航空機	-	-	-	預り金	64,817	65,613	△ 796
航空機減価償却累計額	-	-	-	その他	-	-	-
その他	-	-	-	負債合計	17,858,226	18,312,854	△ 454,628
その他減価償却累計額	-	-	-	【純資産の部】			
建設仮勘定	300,086	71,986	228,100	固定資産等形成分	30,152,725	30,196,345	△ 43,620
インフラ資産	5,704,852	5,894,707	△ 189,855	余剰分(不足分)	△ 16,934,208	△ 17,513,854	579,646
土地	527,133	526,986	147				
建物	657,360	657,360	0				
建物減価償却累計額	△ 463,225	△ 445,167	△ 18,058				
工作物	17,433,261	17,300,113	133,148				
工作物減価償却累計額	△ 12,549,148	△ 12,233,535	△ 315,613				
その他	-	-	-				
その他減価償却累計額	-	-	-				
建設仮勘定	99,471	88,950	10,521				
物品	1,411,672	1,376,929	34,743				
物品減価償却累計額	△ 1,147,228	△ 1,088,202	△ 59,026				
無形固定資産	32,585	11,837	20,748				
ソフトウェア	32,585	11,837	20,748				
その他	0	0	0				
投資その他の資産	4,563,699	4,436,629	127,070				
投資及び出資金	1,045,666	1,055,375	△ 9,709				
有価証券	40,062	49,777	△ 9,715				
出資金	130,781	130,775	6				
その他	874,823	874,823	0				
投資損失引当金	△ 10,512	△ 10,638					
長期延滞債権	35,833	42,866	△ 7,033				
長期貸付金	-	-	-				
基金	3,497,048	3,353,650	143,398				
減債基金	1,039,975	899,400	140,575				
その他	2,457,073	2,454,250	2,823				
その他	-	-	-				
徴収不能引当金	△ 4,336	△ 4,624	288				
流動資産	3,320,018	2,791,604	528,414				
現金預金	912,550	786,883	125,667				
未収金	11,031	12,269	△ 1,238				
短期貸付金	-	-	-				
基金	2,396,000	1,992,604	403,396				
財政調整基金	1,881,000	1,477,604	403,396				
減債基金	515,000	515,000	0				
棚卸資産	-	-	-				
その他	1,260	1,153	107				
徴収不能引当金	△ 824	△ 1,305	481	純資産合計	13,218,517	12,682,491	536,026
資産合計	31,076,742	30,995,345	81,397	負債及び純資産合計	31,076,742	30,995,345	81,397

(2) 行政コスト計算書 (P L)

行政コスト計算書は、一会計期間において、資産形成に結びつかない経常的な行政活動に係る費用（経常的な費用）と、その行政活動と直接の対価性のある使用料・手数料などの収益（経常的な収益）を対比させた財務書類です。

これにより、その差額として、地方公共団体の一会計期間中の行政活動のうち、資産形成に結びつかない経常的な活動について税金等でまかなうべき行政コスト（純経常行政コスト）が明らかにされます。

行政コスト計算書は、企業会計における損益計算書に対応するものといえますが、損益計算書が一会計期間の営業活動に伴う収益・費用を対比して「当期純利益」を計算するのに対して、行政コスト計算書は一会計期間の経常的な行政活動に伴う費用と上述の収益を対比して「純経常行政コスト」を算出する点で大きく異なります。

これは、地方公共団体の行政活動は企業のように利益の獲得を目的としないこと、新地方公会計では、税金を行政コスト計算書ではなく、純資産変動計算書に計上することと関係します。損益計算書の収益として計上される売上高は、企業が提供する商品やサービスの直接の対価であるのに対して、税金は、対価性がなく住民から徴収される財源であり、行政コスト計算書が対象とする経常的な行政活動のほか、インフラ資産などの資産形成等にも用いられることを予定した財源であることによります。

●庄内町の状況

純経常行政コスト	109 億 6,810 万円	(R2 : 129 億 6,498 万円)
純行政コスト	109 億 6,940 万円	(R2 : 130 億 1,443 万円)

経常費用 11,313,780 千円に対し、経常収益は 345,679 千円です。

さらに、臨時損失、臨時利益を加味したものが純行政コストとなります。

この純行政コストをまかなう財源については、純資産変動計算書で確認できます。

令和3年度は、経常費用は 1,944,610 千円減額の 11,313,780 千円となりました。そのうち、人件費、物件費等の業務費用は 6,489,281 千円、補助金等や社会保障給付等の移転費用は 4,824,499 千円となりました。令和2年度の特例定額給付金（新型コロナウイルス感染症関連）の皆減により、移転費用のうち補助金等が大きく減額となっています。

⇒関連指標 効率性 「住民一人あたり行政コスト」

【様式第2号】

行政コスト計算書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月31日

(単位:千円)

科目	金額		増減
	令和3年度	令和2年度	
経常費用	11,313,780	13,258,390	△ 1,944,610
業務費用	6,489,281	6,714,369	△ 225,088
人件費	2,057,064	2,089,174	△ 32,110
職員給与費	1,467,037	1,465,900	1,137
賞与等引当金繰入額	126,581	132,103	△ 5,522
退職手当引当金繰入額	-	23,988	
その他	463,447	467,183	△ 3,736
物件費等	4,329,215	4,504,016	△ 174,801
物件費	3,055,091	3,225,822	△ 170,731
維持補修費	59,915	117,677	△ 57,762
減価償却費	1,214,209	1,160,517	53,692
その他	-	-	
その他の業務費用	103,001	121,179	△ 18,178
支払利息	55,342	66,062	△ 10,720
徴収不能引当金繰入額	5,023	5,929	△ 906
その他	42,636	49,188	△ 6,552
移転費用	4,824,499	6,544,020	△ 1,719,521
補助金等	3,253,907	5,006,989	△ 1,753,082
社会保障給付	922,569	912,289	10,280
他会計への繰出金	616,878	623,072	△ 6,194
その他	31,144	1,671	29,473
経常収益	345,679	293,410	52,269
使用料及び手数料	86,930	87,203	△ 273
その他	258,748	206,207	52,541
純経常行政コスト	10,968,101	12,964,979	△ 1,996,878
臨時損失	3,267	52,781	△ 49,514
災害復旧事業費	-	-	
資産除売却損	0	42,142	△ 42,142
投資損失引当金繰入額	-	10,638	
損失補償等引当金繰入額	3,267	-	1,289
その他	-	-	
臨時利益	1,964	3,331	△ 1,367
資産売却益	1,838	3,331	△ 1,493
その他	126	-	△ 10,891
純行政コスト	10,969,404	13,014,429	△ 2,045,025

(3) 純資産変動計算書 (NW)

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産の部に計上されている各項目が、1年間でどのように変動したかを表す財務書類です。

純資産変動計算書においては、地方税、地方交付税などの一般財源、国県支出金などの特定財源が純資産の増加要因として直接計上され、行政コスト計算書で算出された純行政コストが純資産の減少要因として計上されることなどを通じて、1年間の純資産総額の変動が明らかにされます。

● 庄内町の状況

前年度末純資産残高	126億8,249万円	(R2: 125億2,855万円)
本年度純資産変動額	5億3,603万円	(R2: 1億5,394万円)
本年度末純資産残高	132億1,852万円	(R2: 126億8,249万円)

本年度の純資産が増加したということは、現世代の負担により将来にわたり使用できる資産を形成したということになり、将来世代の負担が軽減したといえます。反対に、純資産の減少は、負担が将来世代に先送りされたといえます。

令和3年度は、財源のうち国県等支出金は減額したものの税収等の増額により、財源が純行政コストを上回ったことから、本年度差額は543,856千円と前年度より411,962千円増額となりました。これにより、本年度末純資産残高は536,026千円増額し、13,218,517千円となりました。

【様式第3号】

純資産変動計算書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月31日

(単位:千円)

科目	令和3年度			令和2年度			増減額
	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	
前年度末純資産残高	12,682,491	30,196,345	△ 17,513,854	12,528,547	30,057,711	△ 17,529,164	153,944
純行政コスト(△)	△ 10,969,404		△ 10,969,404	△ 13,014,429		△ 13,014,429	2,045,025
財源	11,513,260		11,513,260	13,146,322		13,146,322	△ 1,633,062
税収等	8,724,207		8,724,207	8,422,995		8,422,995	301,212
国県等補助金	2,789,054		2,789,054	4,723,327		4,723,327	△ 1,934,273
本年度差額	543,856		543,856	131,894		131,894	411,962
固定資産等の変動(内部変動)		△ 35,790	35,790		116,584	△ 116,584	
有形固定資産等の増加		640,123	△ 640,123		977,990	△ 977,990	
有形固定資産等の減少		△ 1,214,209	1,214,209		△ 1,203,803	1,203,803	
貸付金・基金等の増加		705,201	△ 705,201		428,210	△ 428,210	
貸付金・基金等の減少		△ 166,904	166,904		△ 85,814	85,814	
資産評価差額	△ 7,830	△ 7,830		△ 51	△ 51		△ 7,779
無償所管換等	-	-		22,101	22,101		△ 22,101
その他	-	-		-	-		-
本年度純資産変動額	536,026	△ 43,620	579,646	153,944	138,634	15,310	382,082
本年度末純資産残高	13,218,517	30,152,725	△ 16,934,208	12,682,491	30,196,345	△ 17,513,854	536,026

(4) 資金収支計算書 (CF)

資金収支計算書は、一会計期間における、地方公共団体の行政活動に伴う現金等の資金の流れを性質の異なる三つの活動に分けて表示した財務書類です。

現金等の収支の流れを表したものであることから、キャッシュ・フロー計算書とも呼ばれます。

現金収支については、歳入歳出決算書においても明らかにされますが、資金収支計算書においては、「業務活動収支」「投資活動収支」「財務活動収支」という性質の異なる三つの活動に大別して記載され、地方公共団体の資金が期首残高から期末残高へと増減した原因が明らかにされるのが特徴です。

「業務活動収支」が対象とする「支出」は、基本的に行政コスト計算書が発生主義で計上する資産形成を伴わない経常的な行政活動に伴う費用を現金主義で捉え直したものであり、「収入」は、地方税、地方交付税などの経常的な収入を計上するものです。

地方公共団体は、資産形成を伴わない経常的な行政活動のほか、施設の建設や、道路、橋梁などインフラ資産の形成なども行っていかなければなりませんので、業務活動収支はプラスに保たれるのが通常です。

固定資産形成や長期金融資産形成といった資本形成活動に関する「投資活動収支」と公債費の償還・発行といった負債の管理に関する「財務活動収支」に区分することにより、「業務活動収支（支払利息支出を除く）」と「投資活動収支（基金積立金支出及び基金取崩収入を除く）」の合算により基礎的財政収支（プライマリーバランス）を明らかにします。

●庄内町の状況

業務活動収支	15億 4,187万円	(R2: 11億 2,600万円)
投資活動収支	△9億 9,677万円	(R2: △11億 365万円)
財務活動収支	△4億 1,864万円	(R2: △2億 1,465万円)

投資活動収支の減額が大きいほど、資産が増加していることを意味し、財務活動収支の増加は、地方債が増加していることを表しています。

令和3年度については、業務活動収支は令和2年度の特別定額給付金（新型コロナウイルス感染症関連）の皆減により、移転費用支出のうち補助金等支出が大幅に減額しています。また、財務活動収支は地方債の発行額が地方債償還支出を下回ったことから203,994千円減額の△418,639千円となりました。投資活動収支は、本庁舎等整備事業が令和2年度で終了したことから公共施設等整備費支出が減額し、前年度より106,880千円増額の△996,772千円となりました。

⇒関連指標 持続可能性（健全性） 「基礎的財政収支（プライマリーバランス）」

【様式第4号】

資金収支計算書

自 令和 3年 4月 1日
至 令和 4年 3月31日

(単位:千円)

科目	金額		増減額
	令和3年度	令和2年度	
【業務活動収支】			
業務支出	10,097,986	12,068,877	△ 1,970,891
業務費用支出	5,273,487	5,524,857	△ 251,370
人件費支出	2,062,586	2,069,632	△ 7,046
物件費等支出	3,114,898	3,341,013	△ 226,115
支払利息支出	55,559	66,326	△ 10,767
その他の支出	40,443	47,886	△ 7,443
移転費用支出	4,824,499	6,544,020	△ 1,719,521
補助金等支出	3,253,907	5,006,989	△ 1,753,082
社会保障給付支出	922,569	912,289	10,280
他会計への繰出支出	616,878	623,072	△ 6,194
その他の支出	31,144	1,671	29,473
業務収入	11,637,947	13,194,876	△ 1,556,929
税金等収入	8,728,012	8,428,411	299,601
国県等補助金収入	2,600,714	4,490,340	△ 1,889,626
使用料及び手数料収入	87,268	86,914	354
その他の収入	221,953	189,210	32,743
臨時支出	-	-	-
災害復旧事業費支出	-	-	-
その他の支出	-	-	-
臨時収入	1,912	-	-
業務活動収支	1,541,873	1,125,999	415,874
【投資活動収支】			
投資活動支出	1,281,057	1,465,306	△ 184,249
公共施設等整備費支出	640,123	977,990	△ 337,867
基金積立金支出	592,511	413,520	178,991
投資及び出資金支出	6	6	0
貸付金支出	48,417	73,790	△ 25,373
その他の支出	-	-	-
投資活動収入	284,285	361,654	△ 77,369
国県等補助金収入	186,428	232,987	△ 46,559
基金取崩収入	47,602	51,527	△ 3,925
貸付金元金回収収入	48,417	73,790	△ 25,373
資産売却収入	1,838	3,350	△ 1,512
その他の収入	-	-	-
投資活動収支	△ 996,772	△ 1,103,652	106,880
【財務活動収支】			
財務活動支出	1,528,071	1,552,705	△ 24,634
地方債償還支出	1,528,071	1,552,705	△ 24,634
その他の支出	-	-	-
財務活動収入	1,109,432	1,338,060	△ 228,628
地方債発行収入	1,109,432	1,338,060	△ 228,628
その他の収入	-	-	-
財務活動収支	△ 418,639	△ 214,645	△ 203,994
本年度資金収支額	126,463	△ 192,298	318,761
前年度末資金残高	721,270	913,568	△ 192,298
本年度末資金残高	847,733	721,270	126,463
前年度末歳計外現金残高	65,613	62,498	3,115
本年度歳計外現金増減額	△ 796	3,116	△ 3,912
本年度末歳計外現金残高	64,817	65,613	△ 796
本年度末現金預金残高	912,550	786,883	125,667

4 財務書類を活用した財政分析

平成28年度の財務書類から統一的な基準により財務書類を作成したことで、以下の指標を示すことが可能になりました。今後、統一的な基準による財務書類の整備が進んでいくことで、各指標の年度別推移や、他団体や類似団体との比較が容易になり、分析結果の活用が期待されます。

各指標は、平成31年3月に総務省より示された「地方公会計の推進に関する研究会報告書」に基づき算定しています。

なお、各指標において財務書類4表は、以下のとおり表記しています。

貸借対照表=BS 行政コスト計算書=PL 純資産変動計算書=NW 資金収支計算書=CF

(1) 資産形成度 将来世代に残る資産はどれくらいあるか。

① 住民一人あたり資産額=資産合計÷年度末人口（住民基本台帳人口）

年度		令和3年度	令和2年度
BS 資産合計	千円	31,076,742	30,995,345
年度末(3月末)人口	人	20,157	20,504
住民一人あたりの資産額	千円	1,542	1,512

② 歳入額対資産比率=資産合計÷歳入総額

当年度の歳入総額に対する資産の比率を算定することにより、これまで形成されたストックとしての資産が、歳入の何年分に相当するかを表し、地方公共団体の資産形成の度合いを測ることができます。

年度		令和3年度	令和2年度
BS 資産合計	千円	31,076,742	30,995,345
CF 歳入合計（前年度末資金残高含む）	千円	13,754,846	15,808,158
歳入額対資産比率	年	2.3	2.0

③ **有形固定資産減価償却率**＝減価償却累計額／（有形固定資産－土地等の非償却資産＋減価償却累計額）

有形固定資産のうち、償却資産の取得価格に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを全体として把握することができます。さらに、固定資産台帳等を活用すれば、行政目的別や施設別の資産老朽化比率も算定することができます。

年度		令和3年度	令和2年度
BS 減価償却累計額	千円	36,299,947	34,004,941
BS 有形固定資産	千円	23,160,441	23,755,275
BS 土地等の非償却資産	千円	4,904,595	4,954,554
有形固定資産減価償却率	%	66.5	64.4

(2) **世代間公平性 将来世代と現世代の負担の分担は適切か。**

① **純資産比率**＝純資産総額÷資産総額

地方債の発行を通じて、将来世代と現世代の負担の配分を行います。純資産の減少は、現世代が将来世代にとっても利用可能な資産を費消して便益を享受する一方で、将来世代に負担が先送りされたことを意味し、純資産の増加は、現世代が自らの負担によって将来世代も利用可能な資産を蓄積したものとと言えます。

年度		令和3年度	令和2年度
BS 純資産合計	千円	13,218,517	12,682,491
BS 資産合計	千円	31,076,742	30,995,345
純資産比率	%	42.5	40.9

② **社会資本等形成の世代間負担比率**（将来世代負担比率）

＝地方債合計（特例地方債を除く）÷有形・無形固定資産合計

社会資本等について将来の償還等が必要な負債による調達割合をみることにより、社会資本等形成に係る将来世代の負担の比重を把握することができます。

年度		令和3年度	令和2年度
BS 地方債現在高等	千円	11,275,263	11,529,683
BS 有形・無形固定資産	千円	23,193,026	23,767,112
社会資本等形成の世代間負担比率	%	48.6	48.5

(3) 持続可能性（健全性） 財政に持続可能性があるか。（どのくらい借金があるか。）

① 住民一人あたりの負債額＝負債総額÷住民基本台帳人口

年度		令和3年度	令和2年度
BS 負債合計	千円	17,858,226	18,312,854
年度末人口(各年度3月末人口)	人	20,157	20,504
住民一人あたりの負債額	千円	886	893

② 基礎的財政収支（プライマリーバランス）

＝業務活動収支（支払利息支出を除く）＋投資活動収支（基金積立金支出及び基金取崩収入を除く）

地方債等の元利償還額を除いた歳出と、地方債等発行収入を除いた収入のバランスをみるもので、プライマリーバランスが均衡している場合には、経済成長率が長期金利を下回らない限り経済規模に対する地方債等の比率は増加せず、持続可能な財政運営が実現できているといえます。

年度		令和3年度	令和2年度
C F 業務活動収支（支払利息支出を除く）	千円	1,597,432	1,192,325
C F 投資活動収支（基金積立金支出及び基金取崩収入を除く）	千円	△451,863	△741,659
基礎的財政収支	千円	1,145,569	450,666

(4) 効率性 行政サービスは効率的に提供されているか。

① 住民一人あたり行政コスト

＝純経常行政コスト÷年度末人口（住民基本台帳人口）

住民一人あたりの行政コストを他団体比較し、効率性の度合いを評価します。

年度		令和3年度	令和2年度
P L 純経常行政コスト	千円	10,968,101	12,964,979
年度末人口(各年度3月末人口)	人	20,157	20,504
住民一人あたりの行政コスト	千円	544	632

(5) 弾力性 資産形成を行う余裕はどれくらいあるか。

① 行政コスト対税収等比率＝純経常行政コスト÷財源等

税収などの一般財源等に対する純経常行政コストをみることで、税収などの当該年度の税収のうち、それだけが資産形成を伴わない純経常行政コストに費消されたかを判断する指標です。この比率が100%に近いほど、資産形成の余裕度は低いとされ、100%を上回ると過去から蓄積された資産が取り崩されたことを表します。

年度		令和3年度	令和2年度
PL純経常行政コスト	千円	10,968,101	12,964,979
NW財源（税収等＋国県等補助金）	千円	11,513,260	13,146,322
行政コスト対税収等比率	%	95.3	98.6

(6) 自律性 歳入はどれくらい税金などで賄われているか。

（受益者負担の水準はどうなっているか）

① 受益者負担比率＝経常収益÷経常費用

行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を算出することができます。

年度		令和3年度	令和2年度
PL経常収益	千円	345,679	293,410
PL経常費用	千円	11,313,780	13,258,390
受益者負担比率	%	3.1	2.2